

令和7年度 投資事業評価調書（継続：再評価〔第1回〕）

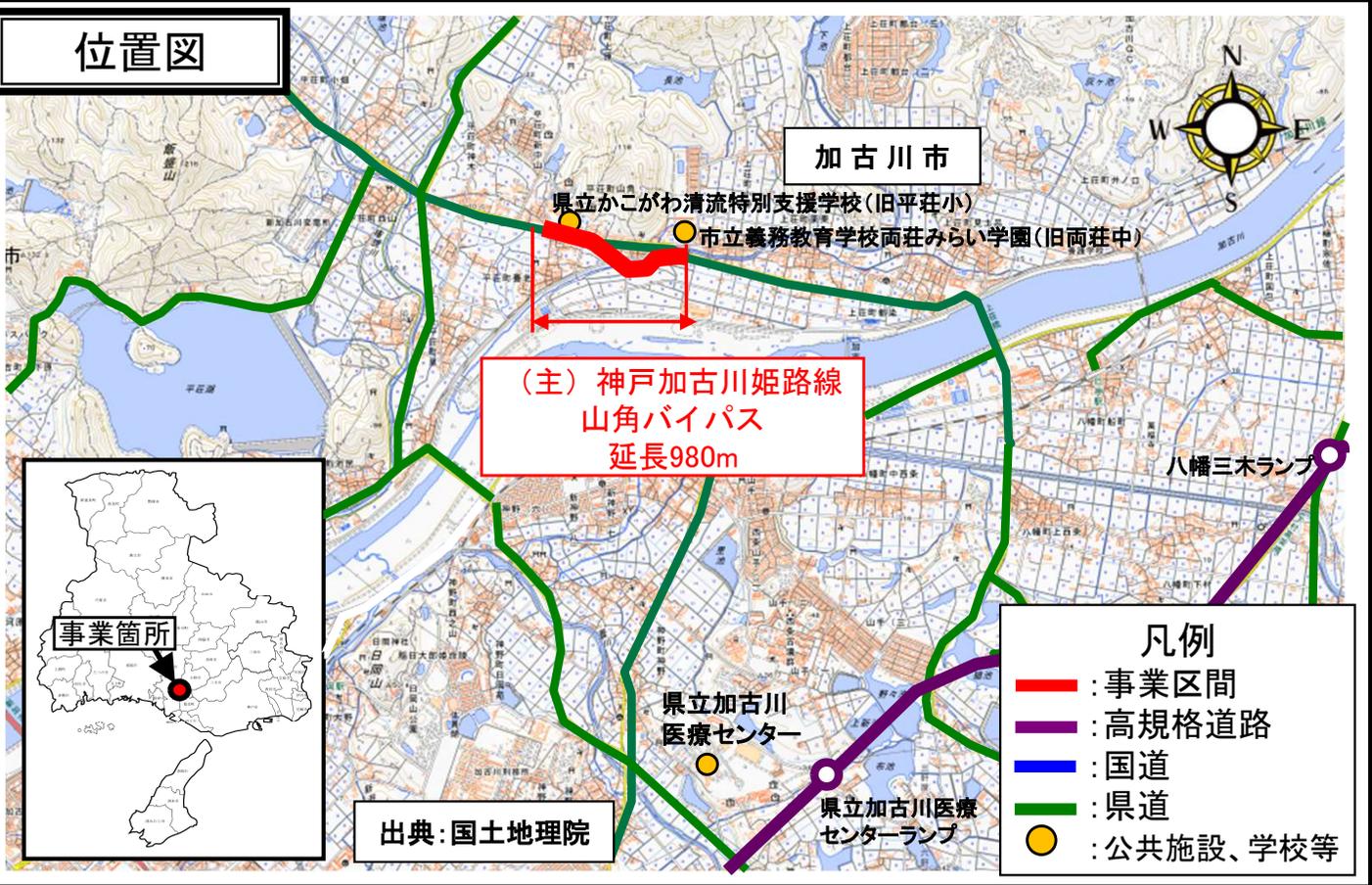
部課室名	道路街路課	記入責任者職氏名 (担当者氏名)	道路街路課長 竹本 修 (県道班長 谷川 陽祐)	内線	75135 (75142)		
事業種目	道路事業	新規評価年度	平成27(2015)年度	現計画	新規評価時点		
事業名	主要地方道 神戸加古川姫路線 <small>やまかど</small> 山角バイパス	事業採択年度	平成28(2016)年度	総事業費	13億円		
		着工年度	平成30(2018)年度	内用地補償費	4.3億円		
事業区間	加古川市 <small>へいそう</small> 平荘町 <small>やまかど</small> 山角			完成予定年度	令和16 (2034)年度		
				進捗率 (用補進捗率)	47% (82%)	令和3 (2021)年度	—% (—%)
				残事業費	6.9億円	8.2億円	
事業の目的				事業内容 () 新規評価時点			
<p>本路線は、加古川バイパスと山陽自動車道の中間に位置し、神戸市と姫路市を結ぶ東西幹線道路である。</p> <p>○円滑な交通の確保 集落内の幅員狭小な現道を現道拡幅およびバイパス化することにより、円滑な交通を確保する。</p> <p>○安全な自転車・歩行者通行の確保 現道拡幅部の歩道設置およびバイパス整備による交通転換により自転車・歩行者の安全な通行を確保する。</p> <p>○県立加古川医療センターへのアクセス強化 県立加古川医療センター（三次救急医療機関）へのアクセスを強化する。</p>				<p>【延長】 980m (1,170m)</p> <p>【構造規格】 第3種第2級</p> <p>【幅員】 計画：2車線 (バイパス部) 車道6.5m[全幅8.0m] (現道拡幅部) 片側歩道3.5m 車道6.0m[全幅11.5m] 現況：1車線 車道4.45m[全幅5.45m]</p> <p>【計画交通量】 自動車：8,100台/日 [R22予測] (自動車：8,200台/日 [H42予測])</p> <p>【現況交通量】 自動車：8,043台/日 [R3センサ] (自動車：8,075台/日 [H27実測])</p> <p>【負担割合】国：55%、県：45%</p>			
事業を取り巻く 社会経済情勢 等の変化	<p>令和5年度をもって近隣の平荘小学校および両荘中学校が廃校。令和6年度から両荘中学校跡地に市立義務教育学校両荘みらい学園が開校。令和8年度より平荘小学校跡地に県立かこがわ清流特別支援学校が開校予定であり、通学による利用増加が想定される。</p> <p>【新規評価時点からの事業計画・総事業費・工期の変更概要】 ①盛土等の追加、および物価上昇により4.8億円増額する。 ②関係機関との協議、用地買収および物件移転に係る交渉難航などにより、完成予定年度を令和16年度に変更する。</p>						
進捗状況	<p>①進捗率は47%（事業費ベース）、用地取得率は82% ②現道拡幅部：用地取得率100%であり、令和7年度工事完了予定。 ③バイパス部：用地取得率0%であり、用地交渉を継続して行く。</p>						
評価視点	評価結果の説明						
審査会意見及び対応方針 (H27年度新規評価)	【審査会意見】 着手妥当	【対応方針】			—		
(1)必要性	<p>①集落内を通過する現道は、幅員狭小（最小車道幅員4.45m、1車線）で、大型車の離合が困難なため、現道拡幅およびバイパス整備により安全で円滑な交通を確保する必要がある。</p> <p>②現道は学校の通学経路であるが、歩道がないことや路肩が狭く危険な状況のため、現道拡幅部の歩道整備およびバイパス整備により通過交通を転換することにより、現道の自転車・歩行者の安全性を確保する。</p>						
(2)有効性 ・効率性 (執行環境状況)	<p>①完成後の現道の管理引継について、加古川市と協議が整っている。</p> <p>②バイパス化により道路幅員等が改良され、移動時間の短縮、現道拡幅部の歩道設置により現道の自転車・歩行者の安全確保が図られる。</p> <p>③費用便益比B/C=3.7（全体）（前回評価時点B/C=9.9）、B/C=8.4（残事業）</p>						
(3)環境適合性	①車道舗装を排水性舗装とし、交通による騒音を低減し沿道環境の改善を図る。						
(4)優先性	①義務教育学校や特別支援学校の開校により、通学利用の増加が見込まれるため安全な交通の確保のため早期供用が必要である。						
再評価の結果	継続	左の理由	現道が義務教育学校や特別支援学校の通学経路として利用されるなど事業の必要性・有効性は事業採択時と変わっていないため継続して事業を実施する必要がある。				

事業進捗状況概要図（継続：再評価〔第1回〕）

事業名	道路事業	路線・河川名	主要地方道 神戸加古川姫路線
<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div data-bbox="300 185 512 241" style="border: 1px solid black; padding: 2px;">位置図</div> <div data-bbox="1141 208 1278 349"> </div> </div> <div data-bbox="304 943 544 1256" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>事業箇所</p> </div> <div data-bbox="1018 1048 1302 1256" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>凡例</p> <ul style="list-style-type: none"> — : 事業区間 — : 自動車専用道路 — : 国道 — : 県道 ● : 公共施設、学校等 </div>			
		整備効果	
<p>全体 H28(2016) ～ R12(2030)</p>	<p>【事業費＝13億円】 延長 1,170m 用地取得面積 約 13,000m² 橋梁 1箇所</p>		
<p>事業採択～ 再評価まで (実績) H 28(2016) ～ R7(2025)</p>	<p>【事業費＝6.1億円】 事業進捗率47%(用地補償進捗率82%) ・用地取得面積 約 1,400m² ・令和7年度 現道拡幅部 完了予定</p>		
<p>今後 9年間 (予定) R8(2026) ～ R16(2034)</p>	<p>【事業費＝6.9億円】 ・用地取得面積 約 11,800m² ・橋梁 1箇所 着手・完了予定</p>		<p>①円滑な交通の確保 ②安全な自転車・歩行者通行の確保 ③県立加古川医療センターへのアクセス強化</p>

道路事業（主）神戸加古川姫路線（山角バイパス）

位置図



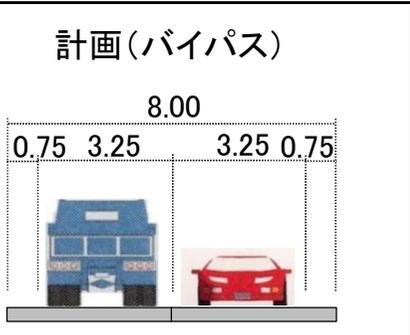
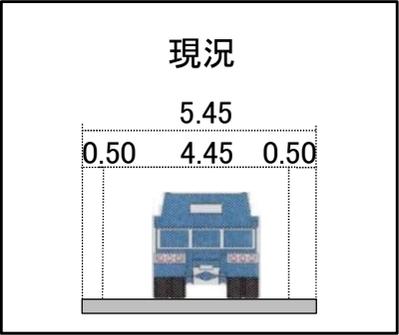
目的

- ①円滑な交通の確保
- ②安全な自転車・歩行者通行の確保
- ③県立加古川医療センターへのアクセス強化

事業概要

事業区間 : 加古川市平荘町山角
 総事業費: 13億円
 内用地補償費: 4.3億円
 事業期間: 平成28年度～令和16年度
 事業概要 : 現道拡幅、バイパス整備
 延長 : 980m
 費用便益比B/C: 3.7

横断図



事業の必要性・優先性

- ・現道は幅員が狭小(4.5m)で大型車・バス等の離合が困難である。
- ・義務教育学校の通学経路として主に自転車で利用されているが、路肩に余裕がなく危険な状況である。
- ・県立加古川医療センター(三次救急医療機関)へのアクセスを強化する必要がある。

現況写真

①幅員が狭小(4.5m)



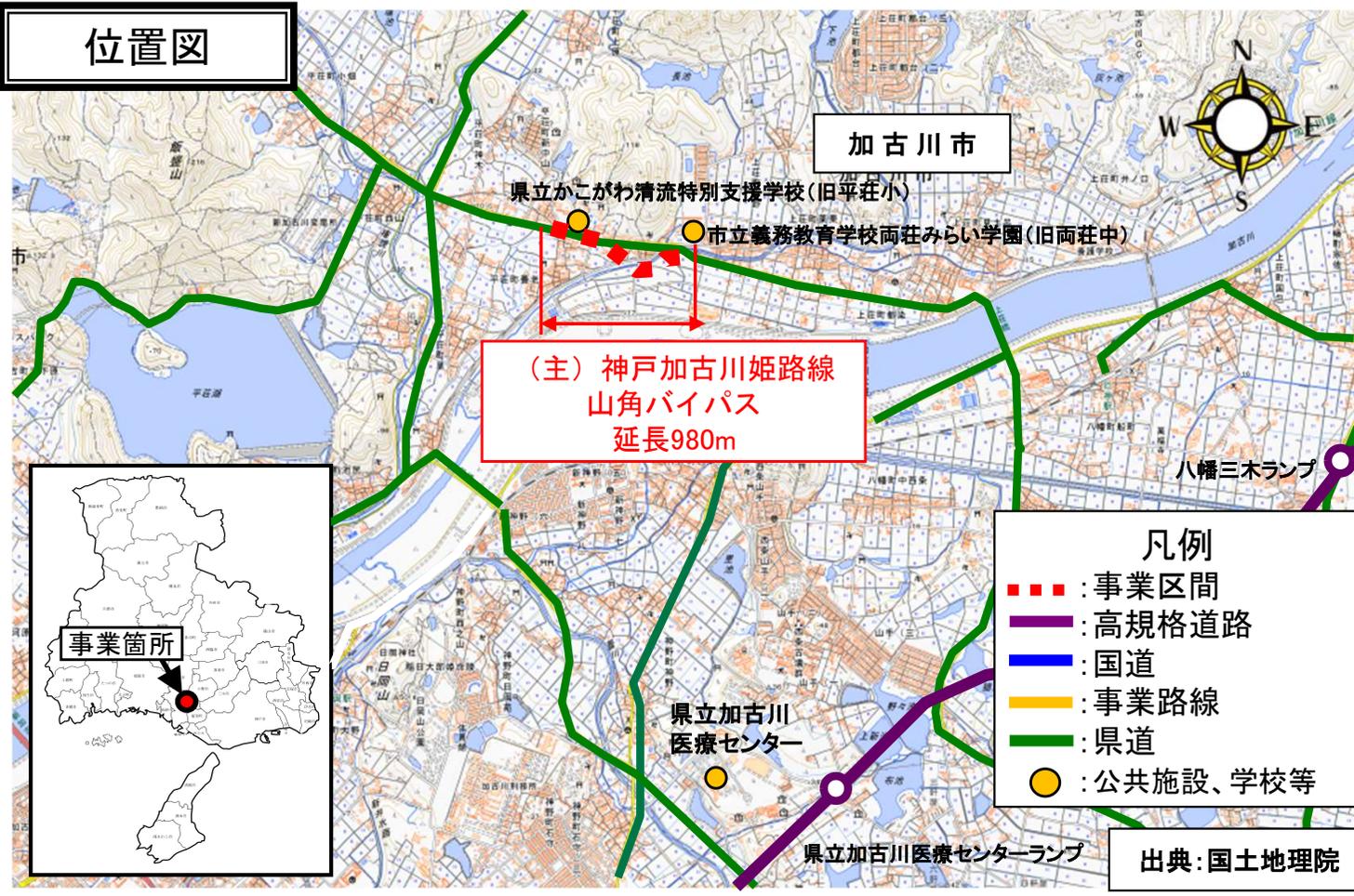
②歩車道分離がなく自転車が危険



③現道拡幅一部完成済み

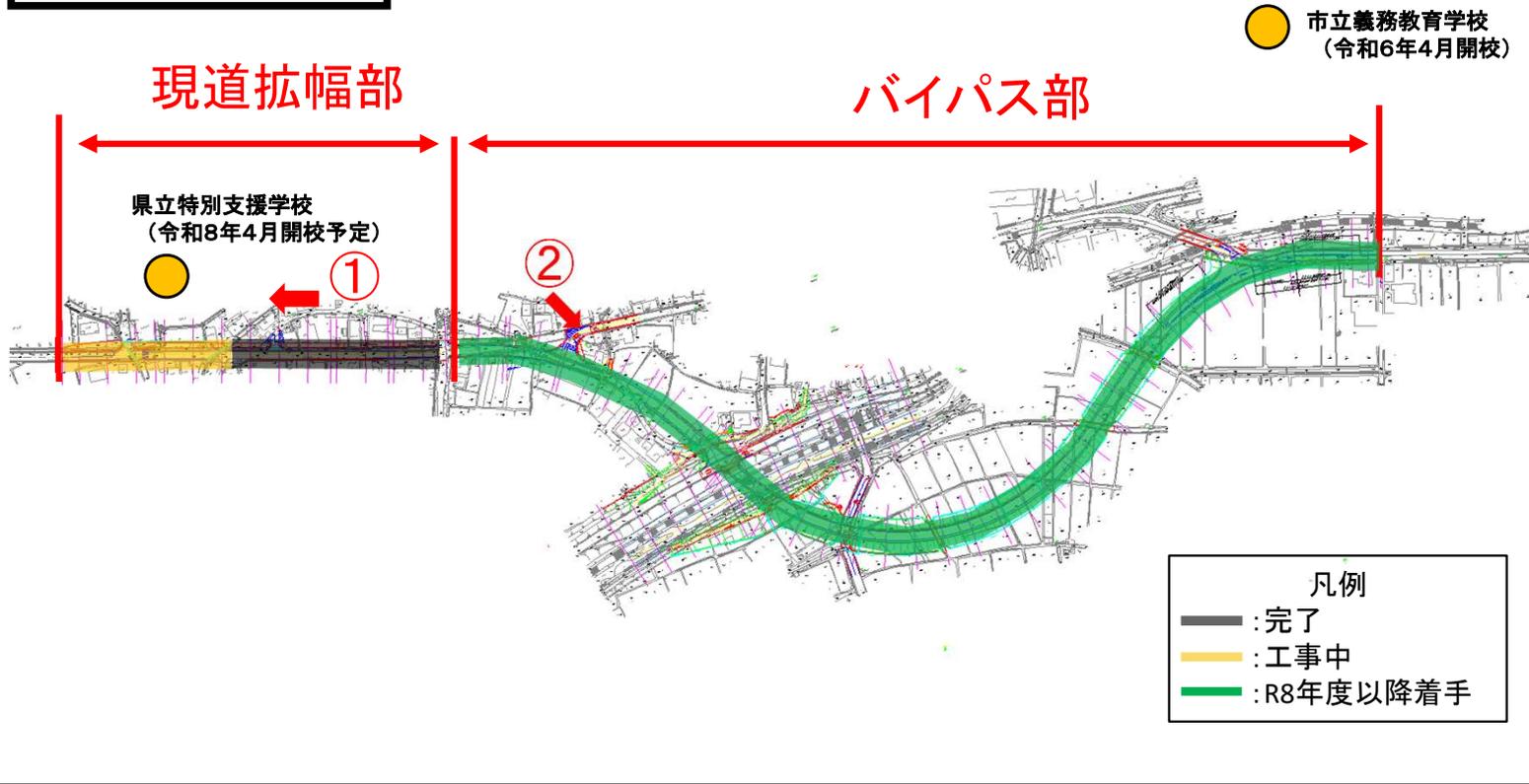


位置図



進捗状況

事業進捗平面図



現況写真

① 現道拡幅部の進捗状況



② バイパス部の進捗状況



工程表

■ : 前回計画
 ■ : 実施・計画

現道拡幅部完成

工種	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	R15	R16
設計・協議	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■								
用地補償		■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■				
道路改良工事				■	■	■	■		■	■				■	■				■
橋梁工事				■	■	■										■	■	■	■

事業の有効性・効率性

(1) 費用対効果

① 便益(B)の項目

評価の視点	効果項目(費用対効果の便益内容)
① 走行時間短縮便益 目的地までにかかる時間が短くなることによる便益	整備無しの走行時間費用－整備有りの走行時間費用 走行時間費用: $\Sigma(\text{交通量} \times \text{走行時間}) \times \text{時間価値原単位} \times 365\text{日}$
② 走行経費減少便益 交通の流れがスムーズになり燃費などが向上することによる便益	整備無しの走行経費－整備有りの走行経費 走行経費: $\Sigma(\text{交通量} \times \text{距離}) \times \text{走行経費原単位} \times 365\text{日}$
③ 交通事故減少便益 交通事故が減少することによる便益	整備無しの事故損失額－整備有りの事故損失額 事故損失額: $\Sigma[\text{交通量} \times \text{距離} \times \text{交差点以外の事故損失原単位} + \text{交通量} \times \text{主要交差点数} \times \text{交差点部事故損失原単位}]$

② 費用便益費(B/C)算出根拠

事業	事業名	B(便益)		代表的な効果	C(費用)			B/C	
		便益額 (百万円)			総費用 (百万円)	事業費 (百万円)	維持管理費 (百万円)		
道路	主要地方道 神戸加古川姫路線	全体事業費	① 走行時間短縮便益	4,364	計画交通量: 8,100 台/日	1,230	1,192	38	3.7
			② 走行経費減少便益	142					
			③ 交通事故減少便益	25					
			計	4,531					
		残事業費	① 走行時間短縮便益	4,364	計画交通量: 8,100台/日	540	502	38	8.4
			② 走行経費減少便益	142					
			③ 交通事故減少便益	25					
			計	4,531					

(2) 費用対効果に含まれない効果

評価の視点	効果項目
(災害時) ①安全安心の確保	緊急医療・緊急物資の円滑な輸送の確保 (※緊急輸送道路の整備、防災拠点・災害拠点病院へのアクセス道路の整備)
	救助・救援活動の支援 (※災害時の通行不能や孤立集落の解消)
	減災対策への取り組み (※二重堤道路、避難路・避難場所としての機能、延焼防止機能の確保)
(平時) ①安全安心の確保	救急医療体制の支援
	交通安全対策
②地域の活性化	地域間交流の促進
	中心市街地の活性化
	地域産業の活性化
	観光支援
	地域プロジェクト等支援
③円滑な交通体系の確保	公共交通機関利用の促進 交通結節機能の向上
④地域の環境改善	沿道環境の改善 景観形成

該当する事業内容等	
○	東播磨北部から県立加古川医療センターへのアクセス性の向上
○	東播磨北部から県立加古川医療センターへのアクセス性の向上
—	—
○	東播磨北部から県立医療加古川センターへのアクセス性の向上
○	通過交通のバイパスへの転換による現道利用者も安全性の向上
○	東播磨北部と周辺都市(神戸・姫路)とのアクセス性の向上
—	—
○	東播磨北部と周辺都市(神戸・姫路)とのアクセス性の向上による地域産業の活性化
—	—
○	平之荘神社の参道を従来通り利用できることによる秋祭りの実施などの地域の活性化
—	—
○	通過交通のバイパスへの転換による騒音、排気ガスなどの沿道影響の軽減

(3) 地域からの要望状況等

要望状況等	東播臨海広域行政協議会等から事業推進の要望書が提出されるなど早期整備が期待されている
-------	--